

岩手県版GAPの
認証取得を目指して



GAPへの理解を深める生産者

JA「金色の風」栽培研究会で県版GAPの認証取得を目指す生産者を対象に8月22日、県版GAP研修会を開きました。講師を一関農業改良普及センターの佐藤拓也農業普及員が務め、GAPの概要を確認し県版GAPチェックシートの記入を行いました。11月頃に農場への指導と監査を行い、12月頃の審査を予定しています。

GAPへの取り組みは経営状況を把握し見直しができることや、農場を整備することで農業者が安全に作業することができる他、消費者へ安全安心な米を届けることにつながります。

来年は、原料の受け入れから最終製品までの各工程で、危害の防止につながる特に重要な工程を継続的に監視・記録する工程管理システム「HACCP」が義務化されます。産地でもGAPを通じて安心安全で信頼される米作りに取り組んでいきます。